

多面的・多角的に考察できる生徒の育成を目指した NIE の推進

宮崎市立木花中学校

教諭 加藤 義暁

1 2年目の活動方針と実践事例

本校は平成29年度からの2ヵ年、実践指定校として取り組んできた。初年度であった昨年度は、新聞になじみの少ない生徒が多かったことから、実践テーマを「新聞を通して、自分の世界をひろげよう」とした。新聞を身近な情報ツールとして活用する取組を主軸とし、すべての生徒が新聞に触れ、情報に接し、自分なりの見解をもてるよう実践を行った。この取組により生徒の新聞に対する意識が大きく変わり、新聞を知識や思考を高めるものとして活用できる生徒が増えてきた。

そこで今年度は、多面的・多角的に考察できる生徒の育成を目指し、実践テーマを「広い視野で世界を見つめ、比較し関連付けて考察しよう」と設定して活動に臨んだ。その中で今年度特に重点を置いたのが、各教科の授業での活用である。これまで継続的に行ってきた活動に改善を加えつつ、今年度は授業で新聞を多く活用するよう職員に依頼し授業での実践を増やした。

(1) 2年間を通したおもな実践事例

① 「きばなの風コーナー」

木花中学校に関する記事を切り抜き、掲示板に掲示する。木花地区の記事、在校生・卒業生や校区内の小学生の記事などを掲示することで、新聞の情報を身近なものと感じさせ、賞賛の場、紹介の場とすることができた。

改善点としては、新聞記事を掲示するコーナーを増設し、より多くの記事を紹介できるようにした。

(1)① 取材や投稿などで取り上げられた新聞記事の掲示



② 「いつでも新聞コーナー」

学級前の廊下で一週間分の新聞を休み時間などいつでも誰でも読めるように設置した。生徒はちょっとした時間に興味のある記事に目を通したり、1分間スピーチの記事探しなどで読み込んでいる姿が見られた。

③ 「1分間スピーチ」

新聞記事の要約を主な目的とした1分間スピーチを行った。帰りの会で1日1名計画的に行った。また、スピーチとスピーチ原稿の評価を4段階で生徒に行わ

(1)② いつでも新聞コーナー



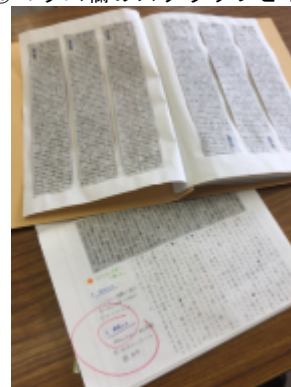
せ、その評価理由を発表者にフィードバックすることで、良かった点や改善点の把握ができた。

(1)④コラム欄のスクラップと宅習

④ 「コラムを活用した家庭学習の推進」

幅広い知識の獲得、文章構成力、語彙力などの向上をねらい、宅習を用いた学習方法を提示した。取組手順は、コラムを貼る→書写する→分からない言葉の読み方や意味を調べ、まとめる。週に1～2回程度の取り組みをすすめた。

改善点として、学級の係活動に「コラム係」をおき、新聞コラムの切り取りとファイルへの保管で活用しやすい環境をつくった。



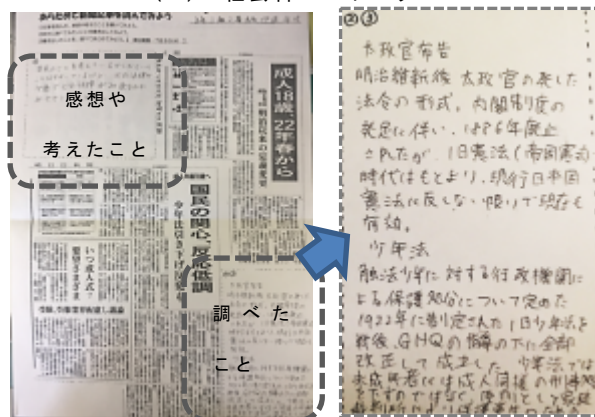
(2) 各教科での授業実践

昨年度は、社会科の授業において単元を絞り込んで NIE の実践を行ってきた。

今年度は社会科の授業において単元を貫く学習課題を設定してその中でより効果的な活用について考え実践を行った。右のワークシートは単元に関わる記事を提示し、私見と疑問点、疑問についての調べ学習を行ったものである。

また、その他の教科でも単元目標に応じて授業実践を行った。その一例が以下のものである。

(2) 社会科 NIE ワーク



① 第2学年国語科 「効果的に伝える」

概要 新聞各紙の中から同一内容の記事を探し、見出しや記事、レイアウトなどの比較を行う。この活動を通して、表現の違いにより読み手の受け取り方が異なってくることを体感し、自己の表現力向上につなげた。

② 第3学年理科 「自然環境と人間生活」

概要 地球温暖化やその対策に関する新聞記事を収集しておき、その記事を資料として活用し、地球温暖化について意見をまとめる。地球温暖化に対する世界各国の対応の相違や市民の活動など、グローバルな視点からローカルな視点までとりあげることで、多面的・多角的な考察につながり、それが自分の意見としてまとめることにつながった。

③ 第2学年社会科 「資源・エネルギーと産業からみた日本」

概要 テーマについての調べ学習を新聞とインターネットを活用し、収集できる情報の特性について比較し両者の利点を確認させる。5～6名のグ

グループをつくり、5つのグループにはそれぞれ無作為に抽出した1日分の新聞を配付してテーマに関する記事を集めさせた。そして、1つの班には教師がサポートしながらインターネットを用いてテーマについて調べさせた。調べた内容を発表し共有化することで、それぞれの情報の特性についての理解が深まり、新聞の情報に対する興味も高まった。

(2)③ 「宮崎の産業の課題」についての新聞（写真左、中央）とインターネット（写真右）を用いた学習活動



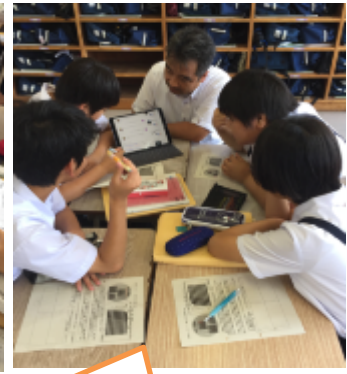
【生徒感想（一部抜粋）】

新聞とインターネットで集められる情報がずいぶん違うと思った。それぞれのよさをうまく生かしたい。



【生徒感想（一部抜粋）】

いろいろな情報を集められた。はじめは難しいと思っていたけど結構みつけれられた。



【生徒感想（一部抜粋）】

調べたいことを素早く、くわしく調べることができた。便利だった。

(3) みやざき NIE フォーラム・こどもサミット（平成30年8月18日開催）への参加
本校から参加する1名を選考するために第3学年全員でテーマについての取り組みを以下の手順で行った。

- ①「地域医療」「地域福祉」の2つのテーマから1つを選択。
- ②テーマに関する記事を集める。
- ③自分の見解を発表原稿にまとめる。
- ④班（5～6名）での発表と班代表者の決定。
- ⑤班代表者による学級での発表と学級代表者の決定。
- ⑥学級代表の3名の発表原稿の掲示と投票による学年代表者の決定。

その後、代表者は夏休みの時間を利用して、さらに調べ学習を行った。「地域医療」「地域福祉」を関連付けて問題点や課題について考え、災害時における高齢者の被害に注目して地域福祉のあり方について検討した。広い視野で捉えた課題について、自分にできることは何か？という論点から意見を構築した。参加した生徒は、「記事から解決策を考えたり、自分の身の回りにある課題に気付いたりする。さまざまな記事を読んで新しい情報に触れ、それらを関連付け、比較検証することで自分の視野が広がり、知識や思考が深まる。中学生の時期にもっと読むべき」と新聞と学びについて述べている。また、同学年の県内中学生の意見を聞くことで、自分とは異なる視点にも気づき、より広い視野をもてるようになった。

